

「知ること、考えることは守ること」

宮城県 村田町立村田第二中学校 3年
小関 ソフィア（こせき そふいあ）

私は、日本に生まれ育ち、平和な毎日を送っています。時には悩むこともあります。それは生活を脅かすようなものではありません。しかし、今現在、平和な生活どころか、命まで脅かされている人々がいるのです。

『戦争』・・私はこの言葉を歴史の中の遠い出来事だと思っていました。でも、今年になって突如としてこの言葉が身近なものになってしまいました。

ロシアによるウクライナ侵攻。

たくさんの罪もない人たちの幸せな暮らしを、そして大切な命を奪う恐ろしい戦争が、今、実際に起きているのです。

私の母はウクライナ人です。ウクライナには今も祖父と祖母、叔父が暮らしています。

やさしい笑顔の祖母は、ウクライナで料理人をしていたそうです。その影響もあってか、母は時々、ボルシチやピロシキなどのおいしい料理を作ってくれます。母のふるさとウクライナは私にとっても、大切な場所です。

私が最後に家族とウクライナを訪れたのは、十年以上前で、まだ小さい時ですが、お店が立ち並ぶきれいな町並みをうっすらと覚えています。しかし、この戦争で町は砲撃され、近くに爆弾が落ちたため、祖父母と叔父は住んでいたマンションを出て、別な町に移らなければならなくなりました。

戦争が始まってから、母と祖母は毎日のようにテレビ電話で話をしています。子どもたちに心配をかけたくないのか、詳しい状況を話すことはあまりなく、互いに笑顔を見せ、明るくふるまっています。でも内心は、どれほど不安で、どれほど悲しい気持ちでいることでしょうか。母が通っていた小学校が焼け落ちてしまったと聞いたときは、とてもつらそう。私も胸が苦しくなりました。

私の父は、世界情勢についていつも色々と調べていて、沢山の情報の中から私にも戦争の現状を説明してくれることがあります。

あるとき私は、民間人や民間施設を攻撃することが禁止されているにも関わらず、病院や学校が標的にされ、罪のない子どもや女性など多く

の市民が犠牲になっていることを聞き、怒りを感じ、批判を口にしました。その時父は、確かにそうだ、ただどんなことも、ひとつの方向からだけ見て判断し、批判することは危険なことだと話してくれました。

その後、この戦争についての色々な記事を見ている中で、私は、日本に住むロシア人が一方的な偏見から差別や中傷を受け、「憎悪犯罪」と呼ばれるものが起きていることを知りました。この日本でも、戦争によって無関係な人たちが傷つけられている現実があったのです。そういえば、ウクライナ人の母は、ロシア人の仲のいい友達と、互いに複雑な思いを抱いていると聞いたことがありました。

直接的な被害の他にも、この戦争で大きな傷を負っている人は世界中に本当に沢山いるのだと知り、私は『戦争は最大の人権侵害』という言葉の意味を、より深く感じました。

ネット社会に生きる私たちは、日々様々な情報を得ています。誰かの言動を批判する意見を見ると、それを正義のように感じ、自分でもよく考えずに批判してしまうことがあるのではないかと思います。それが人権侵害につながるかもしれないとは思わないで・・・

私は、何事もまずよく「知ろうとする」ことが大切だと思うようになりました。そして、多角的な視点で情報を集め、自分で考えて判断することを意識するようになったのです。

そんなとき、生徒会でウクライナへの支援募金をしようという話が持ち上がりました。自分にも何かできないかと思っていた私は、生徒会メンバーと話し合い、全校生徒の前でウクライナの現状を知ってもらうスピーチを行うことにしました。ポスターも作り、期間中は毎日呼び掛けをしました。その結果、中学生はもちろん、保護者の皆さんや先生方にも賛同してもらい、予想をはるかに上回る支援金を集めることができたのです。

金額もですが、みんながウクライナの現状を知り、真剣に考えてくれたことがとてもうれしかったです。また、募金の役立て方について、生徒会メンバーで調べ、話し合ったことで、活動がより実りあるものになりました。

『人権を守る』というと難しく感じるかもしれませんが。でも、何事もまずよく知ろうとすること、色々な方向から情報を得て、自分で考え、判断しようとするのが、人権を守る第一歩だと、今私は感じています。

戦争や人権についてだけでなく、私たちの日常生活の色々な場面でも同じことが言えます。校内に掲示してある学校安全スローガン『知ることは自他を守ること』この言葉の意味が、今の私にはとてもよくわかります。

私はこれからも、知ること、考えることを大切にして、みんなの人権を守れる人間になりたいと考えています。そしていつも、自分にできることを探して行動する気持ちを忘れないようにしたいと思っています。